

平成29年6月

矢作川流域森林組合、林業事業体各位

矢作川森の健康診断実行委員会 代表 丹羽健司
矢作川流域圏懇談会山部会 座長 蔵治光一郎

「矢作川流域林業就労中堅離職問題実態調査」～矢作川流域林業担い手100人ヒヤリング～実施についてご協力をお願い

向夏の候ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

2005年に開始しました矢作川森の健康診断事業については皆様のおかげで、2014年に計画通り10年間の森林調査を完遂することができました。2016年には「森の健康診断の10年」を刊行してその成果を世に問うことができました。1017年1月には栄えある愛知環境賞をいただくことができました。

さて、この事業の成果として流域の人工林の実態が明らかになり、改善の兆しも見えてきました。何よりも市民と研究者、行政、事業者がともに流域の森のありようを考えるきっかけ作りに貢献できたと自負しています。

とはいうものの、流域の森林・林業をめぐる状況は依然として厳しさを増しています。特に森林整備を担う森林組合の中堅技能職員の離職が喫緊の課題と考えられます。そこで、林業への新規就業増の一方で、志高く就業しせっかく育てた中堅技能職員が他産業に離脱していく事例が増えています。

そこで、矢作川流域懇談会山部会と協働してその原因や課題そして展望を明らかにするために、当事者はもとより事業体、行政、森林所有者、都市住民のあるべき関わり方を示すことができたかと本調査を企画しました。何卒ご協力をお願いします。

記

調査概要

1. 調査目的

林業への新規参入者の定着後離職の原因究明と対策策定のため

2. 調査方法

①調査対象：

矢作川流域の林業事業体および林業事業体就業後4年以上で55歳未満の者

②調査期間：2017年7月～2019年3月

③調査手法：対面聞き取り調査

3. 調査結果の活用

①報告書刊行、「森の健康診断」ポータルサイトに掲示

②結果報告・交流会の開催（2019年3月）

4. 詳細は別紙1（矢作川流域林業就労中堅離職問題実態調査実施要領）のとおり

以上

別紙

矢作川流域林業就労中堅離職問題実態調査 要領

調査概要

1. 調査目的

林業への新規参入者の定着後離職の原因究明と対策策定のため

2. 調査方法

①調査対象：

矢作川流域の林業事業体および林業事業体就業後4年以上で55歳未満の者

－ 1. 事業体ヒヤリング

(1) 事業体の基本属性と実態

(2) ヒヤリング対象者の基本情報と調査協力依頼

－ 2. 中堅林業就業者ヒヤリング

林業事業体就業後4年以上で55歳未満の者全員悉皆調査

②調査期間：2017年7月～2019年3月

③調査手法：事業体、個人ともに対面聞き取り調査

④調査項目

別紙2 調査表のとおり

* 未完成

3. 実施主体

主として矢作川森の健康診断実行委員会が調査し矢作川流域圏懇談会が取りまとめる。

4. 調査結果の活用

①報告書刊行、「森の健康診断」ポータルサイトに掲示

②結果報告・交流会の開催（2019年3月）

別紙2

*作成中

事業体ヒヤリング		2017年7-8月	
森林組合			
	根羽村森林組合	△	飯伊森林組合
	恵南森林組合	△	設楽森林組合
	豊田森林組合	△	新城市森林組合
	岡崎森林組合		
		事業体	杣人ren. (そまうんど れん) NPO法人奥矢作森林塾 三宅林業 串原農林 株式会社緑豊 ほか
母集団整備			
	対象者名簿提供依頼		
調査項目			
	事業体名		
	住所		
	代表者		
	担当者		
	事業形態		
	事業規模		
	雇用状況		
	就業体制		
	雇用形態		
	新規参入状況		
	新人育成体制		
	過去5年の新規就業者		
	個人別事情		
	過去5年の離職者		
	個人別事情		
	定着の必要条件		
	個人		
	組織		
	最重要課題		
	最大自慢		
	ほか		